コロナに負けない！がんばろう！
北摂ワンチーム

コロナ禍の先へ

体験型学童保育「せかんどはうす」をスタート 株式会社リグロース（高槻市） 熊田真一郎さん

子どもの頃から乗り物が好きだった。祖父と一緒に、仕事帰りの親を毎日駅まで迎えに行った。新幹線関連の仕事に従事する祖母の影響もあり、大学卒業後は一貫して交通業に携わってきた。

2018年に独立し、その翌年バスを使ったファミリー専用ツアー「あそびばす」を開始した。コンセプトは「学びと発見」。田植えや、ソーセージ作り、ランドセル工房の見学など、体験企画を盛り込み、テレビ取材を受けるなど人気を呼んだ。熊田さんは「子どもは『本物』を体験することで物の見方が変わり、考え方が変わる。そのきっかけ作りがしたかった」と話す。

業績が順調に伸びるなか、昨年1月、国内で初めて新型コロナの感染確認が報道される。その影響で、春に実施予定だったツアーはすべてキャンセル。年末に和歌山電鉄の協力を得て企画した電車貸し切りツアーは、初日分が即日完売したにもかかわらず、「Go Toトラベル」の全国一斉停止、さらに帰省自粛の呼びかけにより中止を余儀なくされた。「半年ぐらい売上はほぼゼロ。でもランニングコストはかかる。国の補助金ではとても間に合わなかった」と振り返る。

これまでの経験を活かして何かできないか。思い浮かんだのが学童保育だった。以

前、自宅近くの寺で行われていた放課後事業を訪れたことがあった。そこには地元の子どもたちが多く通っていた。さらに学童保育の数が不足している現状を知った。そこで、新しいスタイルの体験型学童保育「せかんどはうす」の立ち上げを決意。4月のスタートに向けて、「プログラミング」や「世界の文化」のほか、医療やスポーツなど各分野のプロから仕事の仕組みを学べるカリキュラムを準備している。

これまで交通業の分野で多くの業績改善に取り組んできた熊田さん。社名「リグロース（再成長）」には「どんなことも再成長できる」という信念が込められている。「旅行業を通して全国各地とつながってきた。生まれ育った北摂を拠点に、各地を元気にするお手伝いがしたい」。コロナ禍の今、地域とともに再び成長を目指す。

コラム／COLUMN

梅花から「令和」を込めて

桜の花に添えられたメッセージ

花のプレゼントに、メッセージカードを添えることがあります。万葉の時代は、カードの代わりに歌を贈りました。藤原広嗣（ふじわらのひろつぐ）という人は、娘子（おとめ）へ、桜の花と一緒に次のような歌を詠んで贈っています。

この花の一（ひと）よの内（うち）に百種（ももくさ）の
言（こと）そ隠（こも）れる凡（おほ）ろかにすな
此花乃　一与能内尓　百種乃
言曽隠有　於保呂可尓為莫

（巻8・1456番歌）

「この花の（咲いている）一枝には、想う言葉がたくさん込められている、（くれぐれも）いい加減に扱うことのないように」と。伝えるべき想いは、「百種の言」だけで片付けられ、詳しく語られていません。贈った花の扱い方にまで「すな」と注文をつけているところに、上から目線が感じられます。口数少なく強い調子の言葉遣いを、男らしいと勘違いしていたのでしょうか？

これに娘子は、

この花の一（ひと）よの内は百種の
言（こと）持（も）ちかねて折らえけらずや
此花乃　一与能裏波　百種乃
言持不勝而　所折家良受也

（巻8・1457番歌）

「この花の（咲いている）一枝は、（込められた）言葉を支えきれないで折れてしまったのではありませんか？」と。花はプレゼントのために準備されたのではなく、あなたの言葉の重みに耐えきれなくて折れただけではないのか？としっぺ返しています。せっかくの桜の花が、売り言葉に買い言葉で終わっては、ケンカの種にしかなっていません。

でもよく読むと、娘子の歌は「？」で終わっているところに目がとまります。これに広嗣が、どう応えるのかに真価が問われているようです。考えてみれば広嗣も、「桜の花のプレゼントです」と添えただけでは、「ありがとう」の返事だけで終わってしまいますから。お互いに、相手との距離を考えながら言葉を選び、贈答が続くように詠まないと、コミュニケーションになりません。ふたりの「サクラサク」日は、まだしばらく先のようです。

TEXT

梅花女子大学教授　市瀬 雅之

現代訳から原文までを用いて『万葉集』に文学を楽しむほか、『古事記』や『日本書紀』等に日本神話や説話、古代史をわかりやすく読み解く。中京大学大学院修了 博士（文学）。
著書に『大伴家持論 文学と氏族伝統一』おうふう 1997年、『万葉集編纂論』おうふう 2007年、『北大阪に眠る古代天皇と貴族たち 記紀万葉の歴史と文学』梅花学園生涯学習センター公開講座ブックレット 2010年。ほか執筆・講演・講座多数

俳句／HAIKU

2月25日締切りでご投句いただいた中から、山口昭男先生に入選作品を選んでいただきました。

【優秀賞】

二番目に好きなあなたと梅林に　豊中市　小倉　佳子

この俳句が成功しているのは、季語。ただ単に報告に終わっていないのは、梅林という季語がいかされているからです。菖蒲園ではだめです。二番手の恋人なら梅林で十分だという大胆な切口もまたよいです。

【入選】

石佛に荷物あづけて土筆摘む　吹田市　小澤　桔梗

「あづけて」が秀逸です。土筆摘みへの気持ちもよく伝わってきます。

放送のはじめバリバリ冴返る　箕面市　高橋　真美

そう言えばあの音です。冴返る空気もこのような音がしているようです。

紅梅に白梅宿す屋敷跡　吹田市　福井　久美

紅が白い花弁に重なる色合いを「宿す」と表現しました。ぐっときます。

初日浴ぶ父と息子のリュックかな　西宮市　宮部志津枝

父子が元旦に山へ出かけるということ。季語がすべてを物語っています。

少しだけ空軽くなる二月かな　西宮市　宮部志津枝

一月までの冬の重たい空が二月になると急に軽くなった。いよいよ春です。

【佳作】

うららかや金平糖の沙汰見舞　豊中市　上杉　琴乃

紅梅やひびく王手の駒の音　茨木市　河本　要

伽藍より高きを泳ぐ鯉のぼり　豊中市　安藤　知明

叫びたき時もあり吾春寒し　吹田市　堀田恵美子

豆を撒く子と豆を食う柴犬と　箕面市　高橋　真美

【つぶやき評】

コロナ禍の状況を俳句にという思いが伝わってくる作品が多くありました。この時事的な状況を俳句にするのは、かなり難しい。季語がいかされないからです。逆にこの季語しかないということでチャレンジすることも貴重です。

SELECT

選者
山口 昭男（やまぐち あきお）

1955年 神戸市生まれ。1980年「青」に入会。波多野爽波に師事。2000年「ゆう」入会。田中裕明に師事。編集担当。2010年俳誌「秋草」を創刊し主宰する。毎月発行。句集に『書信』『讀本』『木簡』がある。2018年句集『木簡』で読売文学賞受賞。日本文藝家協会会員。

【俳句の応募方法】

氏名・住所・年齢・明記のうえ、ハガキ、封書、FAX、下記の応募フォームのいずれかからご応募ください。

［宛先］
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘1-13-23
株式会社シティライフNEW　俳句係まで
FAX 06-6368-3505

［応募フォーム］
https://pro.form-mailer.jp/fms/f413b102177160

※締め切りは毎月25日必着　※いずれも一人5句まで
※掲載は次々号となります
※佳作は掲載をもって発表とさせていただきます。
※お名前と作品を掲載します。

FM COCOLO × CITYLIFE ／ 音楽のCOCOLO Vol.22

FM COCOLOの人気DJが季節やテーマに合わせた音楽を紹介。

radiko なら、パソコン・スマートフォンでFM COCOLOが無料でクリアに聴ける!

FM COCOLO WHOLE EARTH STATION

新しいスタートにパワー・チャージする一枚！

ALBUM
PARALLEL LINES
ー
ARTIST
Blondie

仕事に学業にプライベートにさまざまなシーンで変化の多い4月。心躍ったり不安になったり、心も身体も忙しい時に、パワー・アップしてくれるような一枚を選んでみました。1970年代後半ニューヨークのパンクシーンから登場したブロンディ。ヴォーカルのデボラ・ハリーのセクシーさと、肝の座った佇まいがなんと言っても魅力ですが、実は深みのある（長く聴いても飽きのこない）R&Rが詰まってます。そして、何より楽しい！！時代を越えて愛されている一作です。少し前に出版されたデボラの自伝「フェイス・イット」では生後3ヶ月で養子に出された事から、かなりハードな下積み時代のストーリーを彼女らしい言葉で綴られています。めげずに立ち上がる姿が立ち上ってくるようなこのアルバム、自然とエネルギー湧いて来ます。毎週土曜日の番組もぜひお付き合いください。

Blondie（ブロンディ）/ 米・ニューヨーク出身のロック・グループ。デボラ・ハリーとクリス・シュタインを中心に1974年に結成。1980年の「コール・ミー」が全米・全英1位を獲得。その後も「夢見るNo.1」「ラプチュアー」などが全米1位となり、世界的な人気を確立。82年に解散するも、97年に再結成。99年のシングル「マリア」が全英1位となり、健在ぶりを示した。2017年5月に11作目『ポリネーター』をリリース。

SELECT DJ

ちわき まゆみ
MAYUMI CHIWAKI

2月2日生まれ A型。跡見学園女子大学在籍中にバンド活動を始め、テクノポップバンドのヴォーカリストを経て1985年東芝EMIよりソロデビュー。1999年には女性ロックバンド「MEAN　MACHINE」（CHARA、YUKI、YUKARIE、AYUMI、CHIWAKI）を結成し話題を集めた。明るくキュートな性格と、音楽はもちろん、映画、ファッションなどあらゆるカルチャーに精通したキャラクターにも注目され、テレビやラジオの他、イベントのMCとしても多く起用されている。独自の感覚とネットワークを活かし、新しいアーティストの発掘にも余念がない。
担当番組は『THE MAJESTIC SATURDAY NIGHT』（土曜21:00-23:00）